

永遠の真理

ETERNAL TRUTH

メッセージの中心であられるキリスト

2011 年 3月

「清く新しい心を求めて」 「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ」 「ほうれん草とポテトのグラタン」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「メッセージの中心であられるキリスト」 4

朝のマナ

「清く新しい心を求めて」 9
神のみかたちを回復する

現代の真理

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ」 41
正道

力を得るための食事

「ほうれん草とポテトのグラタン」 46

お話コーナー

「神のみ手のうちに」 48

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知市百石町 1-17-2 電話：0887-58-3263

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp

メール：support@4angels.jp

発行日 2011 年 2 月 28 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：dreamstime.com p. 1, 2; Sermonview p.9

方法

キリストはメッセージをお与えになる前に愛と情け深い行為をお示しになった。これらの働き人は戸ごとに訪問し、必要とされるところに助けを与え、機会があれば十字架の物語を語ろう。キリストを彼らのテキストとすべきである。彼らは教理的論題を詳説する必要はない。キリストのみ働きと犠牲について話せばよい。彼らは生活にキリストの純潔を示し、キリストの義を掲げよう。

神はかたよりみるお方ではない。彼は、たとえ他の人々のように十分な教育を受けていない人々であっても、けんそんで献身的なクリスチャンをお用いになる。そのような人々は、戸ごと訪問によって神への奉仕に携わろう。炉端にすわって、けんそんに、慎しみ深く敬けんに接するならば、按手礼を受けた牧師よりもっと家族たちの必要にかなった事をなすことができる。

われわれの教会員たちの間に、もっと戸ごと訪問が行なわれ、聖書研究や文書配布がなされねばならない。……

多くの人の心を動かし得るのは私心のない親切な行為以外にない。彼らの物質的が必要が第一に満たされねばならない。彼らがわれわれの無私の愛の証拠を見れば、キリストの愛を信じることは、彼らにとってより容易なものとなる。

働き人は戸ごと訪問をして、人々に聖書を開き、出版物を配布し、彼ら自身の魂を祝福した光のことを他の人々に語ろう。……

「わたしは、いつもあなたがたと共にいる」とは、キリストのみ約束である。そのような助け手が共にいると保証されているのであるから、われわれは、信仰と希望と勇気を持って働くことができる。……

今、たった今こそ「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」という任務に従う時である。この働きに携わる人々は、聖書に関する知識を備えていなければならない。「こう書かれている」というのが、防衛の武器となるのである。

兄弟姉妹がた、あなたがたの近くに住む人々を訪問し、同情と親切で彼らの心に接するようにしなさい。偏見を持たせるのではなく、それを取り除くような方法で必ず働きなさい。親しみのある方法で隣人を訪問し、彼らと知り合いになりなさい。……この仕事を引き受けない人々、ある人々が示したような無関心な態度をとる人々はやがて最初の愛を失い、彼ら自身の兄弟を非難し、批判し、責めるようになる。

隣人を一人ずつ訪問し、彼らの心があなたの無私の関心と愛によって暖められるまで、彼らと親しくなりなさい。彼らに同情し、彼らと共に祈り、彼らのためになる事をする機会を見守り、そして、できる時に二、三の人々を集めて、彼らの暗い心に神のみことばを開きなさい。……われわれは、使徒パウロが戸ごとに訪問し、涙を流して懇願し、「神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰」を教えないではいられなかったその精神を求める必要がある。(クリスチャンの奉仕 161～166)

メッセージの中心であられるキリスト

第三天使のメッセージは、第四条の戒めである安息日を提示するように求めている。そしてこの真理は世の前に伝えられなければならない。しかし、魅力の大中心であられるキリストが、第三天使のメッセージから外されてはならない。この時代のための働きに携わってきた多くの人々によって、キリストは第二とされてきた。そして、理論と議論が第一位を占めてきた。神聖なご品性に関して、モーセに表された神の栄光が、顕著にされてこなかった。主はモーセに、「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ」と仰せになった(出エジプト記 33:19)。「主は彼の前を過ぎて宣べられた。主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさ〔ない〕……者」(出エジプト記 34:6,7)。

このみ事業で労してきた多くの人々の目の前に覆いがあるかのである。そのために彼らが律法を提示するとき、イエスが見えておらず、したがって、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれるという事実を宣布してこなかった。いつくしみとまこととが共に会い、義と平和とが互に口づけしたのは、カルバリーの十字架においてである。罪人は常にカルバリーを見ていなければならない。そして幼子の単純な信仰をもって、彼はキリストの義と受け入れ、このお方の憐れみを信じて、キリストの功績のうちに安んじていなければならない。真理のみ事業における働き人たちは、キリストの義を新しい光としてではなく、しばらく民の視野から見失われていた尊い真理として、提示すべきである。わたしたちはキリストを自分の個人的な救い主として受け入れなければならない。そのとき、このお方はわたしたちにキリストのうちに神の義を与えて下さる。わたしたちはヨハネが描写した真理を繰り返し、顕著なものとしようではないか。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある」(ヨハネ第一 4:10)。

神の愛のうちに、もつとも驚くべき尊い真理の鉱脈が開かれてきた。そして、キリストの恵みの宝が教会と世の前に開かれている。「神はそのひとり子を賜わ

ったほどに、この世を愛して下さった。……」(ヨハネ 3:16)。これは、なんと
いう愛—なんと驚くべき、はかりしれない愛—であろう、わたしたちがまだ罪人
であったときに、わたしたちのために死なれるようにキリストを導いた愛は!律
法の強い要求を理解している魂が、それでいながら、なおますます満ちあ
ふれるキリストの恵みを理解しないとは、なんという損失であろう!神の律法
がイエスのうちにある真理として宣布されるとき、神の愛を表すのは真実であ
る。なぜなら、この罪深い世界に与えられたキリストという賜物は、すべての
説教の中でおおいに熟考しなければならないからである。心が真理によって
溶かされないのも、それが冷たく命のない方法で提示されてきたのだから無
理もない。牧師や働き人がイエスを神の律法に対するその関係の中で提示し
てこなかったのだから、信仰が神の約束によるめくのも無理はない。彼らはど
れほどしばしば民に、「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての
者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらな
いことがあるか」ということを、保証すべきことであろう(ローマ 8:32)。

サタンは、人に神の愛、すなわち失われた人類を救うためにご自分のひと
り子を与えるように導いた愛を悟らせまいと決意している。なぜなら、人を
悔い改めに導くのは神のいつくしみ深さだからである。ああ、わたしたちはど
のように、深く尊い神の愛を世の前に示すのに成功するであろうか。それを
達成するには、「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛
を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と叫ぶよりほかにない(ヨハ
ネ第一 3:1)!罪人に、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と言おうではな
いか(ヨハネ 1:29)!イエスを御父の代表として提示するとき、わたしたちは、
サタンがわたしたちの行く道に投げかけた影、すなわちわたしたちがイエス・
キリストのうちに表された言いつくせない神の愛の憐れみと愛を見ることがな
いように投げかけられた影を一掃することができる。

十字架を見よ

カルバリーの十字架を見よ。それは、天父の限りない愛、はかりしれない
憐れみの永続的な誓いである。ああ、すべての人が悔い改めて、自分たちの
初めのわざを行うように!教会がこれを行うとき、彼らは神を最高に愛し、自
分たちの隣人を自分自身のように愛するようになる。エフライムはユダをねた
まず、ユダはエフライムを悩ますことはない。そのとき、分裂は癒され、争い
の不快な音は、イスラエルの境界線の中でもはや聞かれなくなる。惜しみな
く神から彼らに与えられる恵みを通して、すべての者はキリストの祈り、すな

わち、ご自分と御父が一つであられるように、ご自分の弟子たちが一つになるようにとの祈りに答えようと努める。平安、愛、憐れみ、寛容が魂の不動の原則となる。キリストの愛がすべての舌の主題となり、もはやまことの証人によって、「しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった」と言われることはなくなる（黙示録 2:4）。神の民はキリストのうちに宿り、イエスの愛が表され、一つの御霊が全員の心を活気づけ、キリストのみかたちのうちに再生され、新たにされて、すべての心が同様に形作られる。まことのぶどうの木のできた枝として、みな生ける頭なるキリストに一致する。キリストがすべての心に宿られ、導き、慰め、聖化し、そして世にイエスに従う者たちの一致を示し、こうして天の信任状が残りの教会に与えられていることについて証を担うのである。キリストの教会が一つであることにおいて、神がご自分のひとり子を世に遣わされたことを証明するようになる。

神の民が御霊の一致において一つであるとき、ユダヤ国家の罪であったすべてのパリサイ主義、すべての自己義は追い払われる。キリストの型がこのお方の体の個々人の肢体の上にはめられ、キリストの民はキリストがご自分の新しいぶどう酒を注ぐことのできる新しい袋となり、そして新しいぶどう酒は新しい袋を破らないのである。神は各時代にわたって隠されていた神秘を知らせてくださる。このお方は「異邦人の受くべき……この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである」ことを知らせて下さる（コロサイ 1:27）〔28,29 節も引用〕。

イエスは人間の魂に、聖霊を与えるためにおいでになった。それによって神の愛が心の中に広く降り注がれるのである。しかし、キリストの時代のユダヤ人たちのように、自分の考えに凝り固まっている者、その教理が型にはまっていて変えられない者、人間の伝統や戒めに従って歩む者の心に、聖霊を与えることは不可能である。ユダヤ人たちは教会の規則には非常に几帳面で、自分たちの形式に従うことには非常に厳密であったが、活力と宗教的な献身には欠けていた。彼らはキリストによって、当時袋として用いられていたかわいた皮として表された。キリストの福音を彼らの心の中に入れることができなかった。なぜなら、それを入れる場所がなかったからである。彼らはこのお方がご自分の新しいぶどう酒を入れることのできる新しい皮袋になることができなかった。キリストはご自分の真理と命の教理を入れる袋のために、学者やパリサイ人たちの間より他の場所を探さざるを得なかった。このお方は心の再生があることを願っている人々を探さなければならなかった。このお方は人に新しい心を与えるために来られた。このお方は、「わたしは新しい

心をあなたがたに与える」と言われた。しかし、かの時代もこの時代も自己義は、新しい心を持つ必要性を感じない。イエスは学者やパリサイ人たちが救い主の必要を感じないがゆえに、彼らのそばを過ぎ行かれた。彼らは形式や儀式に結び連なった。これらの奉仕はキリストによって制定されたのであった。それらは活力と霊的な美しさに満ちていた。しかし、ユダヤ人たちは自分たちの儀式から霊的な命を失ってしまった。そして、霊的命が彼らのうちから消滅した後、死んだ形式にしがみついた。彼らが神のご要求と戒めから離れたとき、彼らは自分たちが失ったものの場所を、自分自身の要求を増し加え、神がなさった以上に要求を厳しくすることによって埋めようとした。そして彼らが厳密になればなるほど、彼らはますます神の愛と御霊をあらわさなくなった。キリストは民にこう仰せになった。「律法学者とパリサイ人とは、モーセの座にすわっている。だから、彼らがあなたがたに言うことは、みな守って実行しなさい。しかし、彼らのすることには、ならうな。彼らは言うだけで、実行しないから。また、重い荷物をくくって人々の肩にのせるが、それを動かすために、自分では指一本も貸そうとはしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。すなわち、彼らは経札を幅広くつくり、その衣のふさを大きくし、また、宴会の上座、会堂の上席を好み、広場であいさつされることや、人々から先生と呼ばれることを好んでいる。」「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざいである。はっか、いのんど、クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならないが、これも見のがしてはならない」(マタイ 23:2～7,23)。

残りの教会はユダヤ人の経験と似た経験を経るようにと召されている。そして七つの燭台の間をあちこちと歩まれるまことの証人は、ご自分の民へ担うべき厳粛なメッセージをもっておられる。このお方は「しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう」(黙示録 2:4,5)。神の愛が教会に欠乏しており、その結果として、自己愛が生じ、新たに活動している。神への愛の喪失によって、兄弟への愛の喪失が生じている。教会はエペソ教会に与えられた描写のすべてを満たしているかもしれないが、なお、生きた信心に欠乏しているのである。彼らについてイエスは、次のように仰せになった、「わたしは、あなたのわざと労苦と忍耐とを知っている。また、あなたが、悪い

者たちをゆるしておくことができず、使徒と自称してはいるが、その実、使徒でない者たちをためしてみ、にせ者であると見抜いたことも、知っている。あなたは忍耐をし続け、わたしの名のために忍びとおして、弱り果てることがなかった。しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった」(黙示録 2:2～4)。

律法主義的な宗教は、この時代にきわめて正しい宗教だと思われてきた。しかし、それは間違いである。パリサイ人に対するキリストの譴責は、心から自分たちの初めの愛を失ってしまった人々に当てはまる。冷たい律法主義的な宗教は、決して魂をキリストへと導くことはない。なぜなら、それは愛のない、キリストのない宗教だからである。断食や祈りが自己義認の精神で行われるとき、それは神にとって嫌悪すべきものである。礼拝のための厳粛な集会、一連の宗教的な儀式、外面的な謙遜、強制された犠牲—みな世に対してこれらのことを行う者は自分自身を正しいと思っているという証を担う。これらのことは、厳密な義務を守る人々に注意を引き、この者は天への資格を持っていると言うのである。しかし、これはみな欺瞞である。行いがわたしたちに天に入る資格を買うことはない。捧げられた一つの大きい捧げものは、信じるすべての人のために十分である。キリストの愛は、信じる者を新しい命で活気づける。命の泉の水から飲む人は、王国の新しいぶどう酒で満たされるようになる。キリストを信じる信仰は、それによって正しい精神と動機が信者を動かす手段となり、すべてのいつくしみ深さと天来の思いが、信仰の創始者であり完成者であられるイエスを眺める人から出てくるのである。人を見ることなく、神を見なさい。神はあなたの天父であられ、あなたの弱さを喜んで耐え忍び、それらを許し、癒して下さる。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります」(ヨハネ 17:3)。キリストを眺めることによって、あなたは変えられ、あなたのかつての誇り、あなたのかつての虚無や自負心、あなたの自己義や不信を憎むまでになる。あなたはこれらの罪を価値のない重荷としてわきに捨て、へりくだって、柔和に、信頼に満ちて、神のみ前に歩むようになる。あなたは愛、忍耐、親切、善、憐れみ、そして神の子らに宿るすべての恵みを実践するようになり、ついには、聖化された聖なる者たちの間に場所を見出すようになるのである。

引用参考文献

61章 セレテッド・メッセージ 1巻 383～388

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



3月 「清く新しい心を求めて」

わたしの献身はどれほど深いか

「人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル記上 16:7)

職業や専門職が何であろうと、一人ひとりが神のみ事業を自分の最も重要な関心事とすべきである。彼は主の働きを前進させるために自分のタラントを用いるだけでなく、この目的のために自分の能力を培わなければならない。……

神の栄光と魂の益のために真理を前進させようと、人をかたより見ることなく、自分自身の安楽、興味、名誉に関係なしに努める人—そのような人は学識や雄弁がなくても高く評価されるべきである。彼は神の貴族である。……

審判を行う者が席に着き、かずかずの書き物が開かれるとき、多くの驚くべき事柄が発覚するであろう。そのとき人々は人間の目や有限な判断に映っていたようには映らない。秘密の罪がすべての者に公然とあらわにされる。心の暗い部屋に隠されていた動機や意図が明らかにされる。外面的には神をあがめ、人に善をなす願いだけであると言われていたところに、入念に計画していた野心、利己的な目的が見える。そのとき何が暴露されるであろうか。純潔な動機と真実で気高い目的の人々が、今は軽視され、無視され、中傷され、嫌われるかもしれないが、そのとき彼らはあるがままに現れ、神の賞賛で栄誉を受ける。偽善的で野心的な教師は、今は人に誉めそやされ、高められているかもしれないが、心の秘密を知っておられる神は人をだますような覆いをはぎとり、彼らのあるがままに見せる。すべての偽善者の仮面ははがされ、中傷されたすべての信者は義認される。……

キリストのみ名をとえ、このお方の記章を身につけている者がみなキリストのものというわけではない。イエスは「わたしに従ってきなさい」と仰せになる。罪深い習慣にふけり、世の軽薄な言動を楽しむ者はキリストの子であろうか。わたしたちは彼らの歩む道に救い主の足跡を見ることができだろうか。……

わたしたちをご自分の意志ではなく、御父の意志をなすことを求められたお方の歩みに従っているであろうか。もしわたしたちにキリストの御霊がなければ、わたしたちはこのお方のものではない。わたしたちは二人の主人に仕えることはできない。(ビュー・アンド・ハルド 1884 年 1 月 1 日)

わたしたちの時代の徴候

「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。」(創世記 6:5)

ノアの時代の目立った特徴は住民の猛烈な名利欲の強さであった。彼らは食べ、飲み、植え、建て、めとり、とつぎなどしていた。これらのことはそれ自体罪ではなく、律法にかなっていたが、不節制なまでに過度にふけたのである。食欲は健康と理性を犠牲にしてほしいままにされた。自分たちの罪深い欲望にふけり続けるこのことが彼らを墮落させ、彼らの下に地を汚した。増大したその同じ悪が今日わたしたちの世界に存在する。(サインズ・オブ・タイムズ 1878 年 1 月 3 日)

ノアは洪水前の人々に与えるためにメッセージを与えられた。しかし彼らは彼の警告をさげすんだ。そのように今日神が世に与えるために送っておられるメッセージは拒まれる。しかしこのメッセージは与えられなければならない。神の民はその宣布のためにほかのあらゆる関心を二次的にしなければならない。……

キリストは利己的な世界を、利己心の確かな結果から救うために死なれた。このお方は全世界のために愛とあわれみと同情のうちにご自分の心を開かれ、ご自分のところに来て、完全で無償の許しを受けるようにと墮落した人類をお招きになる。このお方のご品性は、天の宇宙の前に、いっさいの利己心のしみなく立っている。このお方はご自身の心のうちに宿っている慈悲心を男女にもたらすために、完全な犠牲を払われた。キリストが彼らを愛して祈られるのと同じように、人々が自分たちの同胞を愛するようにと彼らを導き、その思いと心を印象づけるためにご自分の聖霊をお送りになった。……

真理を信じ、世のために帯びるようにと神がわたしたちに与えておられるメッセージの重要さに気がついていると公言するすべての者にわたしは嘆願する。次々と町の中で自己犠牲の働きがなされなければならない、州につぐ州が照らされなければならない。真理が燃えるあかりのように進んでいくべきである。神と神が遣わされたイエス・キリストを知っていると公言する者は、世の冷たく利己的な行為に陥ってはならない。彼らの熱意は消えてはならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 1 月 7 日)

自己欺瞞からの救出

「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。『主であるわたしは心を探り、思いを試みる。おのおのに、その道にしたがい、その行いの実によって報いをするためである』。」(エレミヤ 17:9,10)

わたしたちの時代に広くゆきわたっている精神は、不信心と背教の精神、すなわち真理の知識ゆえに啓蒙されているかのようでありながら、その実はもっとも盲目的な憶測のうちにある精神である。神のはっきりとしたみ言葉とこのお方の御霊の証に反対する精神がある。神の表された知恵にまさって単なる人間の理論を偶像崇拜的に高める精神がある。(教会への証 5 巻 79)

わたしたちは真理を聞いて信じることはできるが、もしわたしたちがキリストのみ言葉を日々実践し行う者でなければ、砂の上に家を建てた愚かな者と同じである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 12 月 22 日)

墮落した人間がキリストのご品性をはっきりと理解すればするほど、自分自身を信頼しなくなり、しみのない贖い主の生涯を特徴づけたそれらのことと比べて自分の働きがますます不完全に思えるようになる。(ライフ・スケッチ 84)

神のご品性を表すために、またわたしたちが見せかけのキリスト教によって自分自身や教会や世を欺かないために、個人的に神と親しくならなければならない。もしわたしたちが神と親しい交わり持っているなら、会衆に一度も説教をしたことがなくてもこのお方の聖職者である。(教会への証 6 巻 13)

もしわたしたちがキリストを代表するものであるなら、キリストのみ働きを行う。わたしたちのだれも、遺産として持っており、教育で強められた品性のゆがみ、キリスト教徒に値しない特性を自分の宗教生活に持ち込むことができると考えて、自分を欺かないようにしよう。贖いの計画を通じて、神はすべての罪深い特性を征服するため、またどれほど強かろうとすべての誘惑に抵抗するための手段を備えて下さった。……

わたしたちが神のみ働きの中で、何も成し遂げなくなった理由は、良心に訴えるに当たってイエスからの霊と命をもっと必要としているということである。わたしたち自身のかたくなな心がこのお方の愛によって溶かされなければならない。これだけが無関心という魔力を破り、魂に警報を発し、人々に自分がどこに立っているかをよく考えさせることができるのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 12 月 22 日)

不信仰の危険

「兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者があるかも知れない。」（ヘブル 3:12）

真の道德上の価値は、悪いことを考えたり、話したりすることによって、あるいは他人を軽視することによって、自らの立場を確立しようとはしない。不信仰を伴ったうらやみ、妬み、悪口はすべて神の子らから捨てざらなければならない。（レビュ・アンド・ヘルド 1897 年 9 月 4 日）

わたしたちはキリストの時代の民よりも、今日はあるかに多くの危険の中にいる。主はご自分が任じられた使者を通して語っておられるが、同じ不信仰が表されている。（エノ・G・初什 1888 年原稿 398）

すべての者に働きの中で自己に仕え、自己を喜ばせることをどのように織り込んでいくかに気づかせよう。もし彼らがこれを行うなら、神を辱めるので、このお方はご自分のみ名の栄光のために彼らをお用いになることができない。試練がわたしたちを試すためにおとずれるとき、またわたしたちが自分の前に繁栄と快適さが増し加わるどころか、かえってこれらが減じていくと思われるとき、またすべての人の側で犠牲を要求するような重圧があるとき、わたしたちは、これから自分たちは苦難の時を迎え、万事は粉みじんになり、そして前方には心の痛む問題があるのだというサタンのほめかしをどのように受けとめるであろうか。もしわたしたちがこれらの暗示に耳を傾けるなら、魂に盲目をもたらし神への不信仰が沸き起こる。（レビュ・アンド・ヘルド 1898 年 9 月 27 日）

わたしたちの性質は純潔、聖なるものでなければならない。キリストがわたしたちの魂に反映しているご自分のかたちを喜びをもって見るのがおできになるように、このお方の思いを持たなければならない。わたしたちはだれ一人として、神がわたしたちになつてほしいと思っておられる者にも、わたしたちがなれるはずの者にも、またこのお方のみ言葉がわたしたちになることを要求している者にもなっていない。わたしたちを神から遠ざけているのはわたしたちの不信仰である。……エノク、ヨセフ、ダニエルは無限の力強さにより頼んでいた。これが今日クリスチャンにとって追い求めるべき唯一安全な進路である。……

これらの際立った人々の生涯はキリストと共に神のうちに隠されていた。彼らは、不信心と偶像礼拝に接触してもたらされた不信心のただ中で神に忠誠を尽くし、腐敗のただ中で純潔であり、信仰深く熱烈であった。彼らは信仰によって、純潔で気高い品性の発達に好ましい特性だけを自分に集めた。わたしたちもこのようにできる。わたしたちの立場がどうであろうと、その環境がどれほど嫌悪をもよおすものであろうと、魅力的なものであろうと、信仰はそれらすべてを超越し、聖霊を見出すことができる。（同上 1885 年 9 月 1 日）

内から汚れる

「さらに言われた、『人から出て来るもの、それが人をけがすのである。すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、邪惡、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。これらの惡はすべて内部から出てきて、人をけがすのである』。」(マルコ 7:20 ~ 23)

あなたはいつも兄弟のあら探しをしては話している。そして、あなたが他人のふるまいに異議を唱えている間、あなた自身の心の中に有毒な雑草がもうもうと生い茂って繁茂し、深い根を下ろしてきた。生えてきたこれらの苦々しい根は、多くの人を汚し、あなたがそれらを認めて、抜き去らないかぎりもっと多くの人を汚す。……

〔B兄弟が〕真理を悟る前に、彼の手はだれかれとなく敵対しているように見えた。彼の闘争的な精神は、挑発のたびに強められ、彼の自尊心が傷つけられるのであった。彼は難しい人であり、面倒なことに入り込み、面倒なことを起こしていた。神の真理が彼のうちで改革の働きをした。神は彼をお受け入れになり、このお方の手は彼をお支えになった。しかしB兄弟が自分を捧げる精神を失ってから、他の人と不和である彼の古い不穏な精神が主導権を得ようとし、強められてきた。彼が自己に死に、神の御前に自分の高慢な心をへりくだらせるとき、彼は自分の強さがどれほど弱いかが分かる。彼は天の救いの手の必要を感じて、「おお、神よ、あなたの前に汚れたもの、汚れたもの」と叫ぶ。自慢している彼の誇りはすべて終わりを告げる。

道徳的暗闇が真理と徳に勝利をしている、この嵐の世にある人生はクリスチャンにとって絶え間ない闘争となる。彼は武具をまとい続けなければならないことが分かる。なぜなら彼は決して疲れることのない勢力、決して眠ることのない敵と戦わなければならないからである。わたしたちは自分が数え切れないほどの誘惑に取り囲まれているのが分かり、それらに打ち勝つためにキリストのうちにある力強さを見出さなければならない。さもなければそれらに打ち負かされてしまう。(教会への証 3 巻 452,453)

完全な変化が必要である。ある者はわたしたちの型であるカルバリーの苦しんでいるお方を見失ってしまう。わたしたちは、このお方の奉仕の中で、この世における安逸、名誉、偉大さを期待する必要はない。なぜなら天の至高者であるお方がそれをお受けにならなかったからである。(同上 2 巻 516)

心を頑なにするのはだれか

「主がパロの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの人々を去らせなかった。」(出エジプト 10:20)

わたしたちは、主がパロの心を頑なにされたと言われている。王が主の言葉を聞くことを繰り返し拒んだことによって、より直接的で、より切迫した、より強力なメッセージが呼び起こされた。光を拒むごとに主は、より顕著にご自分の力の表れを示された。しかし王の強情は、天の神の力と大能の新しい証拠が与えられるたびに増し加わり、ついに聖なる矢筒からの憐れみの矢は尽きてしまった。それからその人は自分自身の執拗な反抗によって、全く頑なにってしまった。王は強情の種をまき、まさにそれを自分の品性の中で収穫したのであった。主は彼を納得させるために、これ以上何もおできにならなかった。なぜなら彼は強情と偏見のバリケードで囲われ、そこに聖霊は彼の心の入り口を見つけることができなかったからである。パロは彼自身の不信仰と心の強情さにそのままに引き渡された。不信心は不信心を生み出す。パロが神の権威の最初の現われに際し、心を頑なにしたとき、神の権威に二度目に拒むのをもっと容易にした。自尊心と強情が彼をとりこにし、彼に神の警告を認めさせなかった。一度信じないという自分の決心を表明した後で変更するのは、パロの性向に反した。

パロが行ったことは、猶予期間が閉じるまで人々によって何度も何度も繰り返されるであろう。神はだれをも滅ぼされない。しかし人が罪の自覚を押し殺すとき、彼が証拠に背を向けるとき、彼は不信仰の種をまき、自分がまいたものを刈り取る。パロの場合のように、彼の場合もそうなる。もつとはつきりとした光が真理を照らすとき、彼はますます抵抗して真理に立ち向かい、天から増し加わる光を拒むごとに、心を頑なにする働きは続いていく。わたしたちは、単純さと真理のうちに、人が自分自身の魂を破壊する道に関して悔い改めない人々に語りたいのである。(ビュ・アンド・ヘルド 1891年2月17日)

わたしたちは鋭敏な聖化された知覚が必要である。この知覚は互いに批判し非難するのに用いるのではなく、時のしるしを識別するために用いるべきである。わたしたちは信仰の破船に陥らないように、不斷の努力で自分の心を守るべきである。(教会への証 8 巻 101)

まいたものを刈り取る

「しかしパロはこんどもまた、その心をかたくなにして民を去らせなかった。」
(出エジプト 8:32)

主は、わたしたちの過ちが第二の性質になる前に、それらを正す機会を持つことができるようにと、わたしたちに警告、勧告、叱責をお送りになる。しかし、もしわたしたちが正されるのを拒むなら、神は、わたしたち自身の一連の行動の傾向を無効にするために介入なさることはない。このお方は、まかれた種が発芽し、実を結ぶことがないようにと奇跡を行うことはなさらない。不信心な大胆さを表す人、あるいは聖なる真理に反応しない無関心を示す人は、自分自身がまいた収穫を刈り取るしかない。多くの人の経験がそのようなものである。彼らはかつて彼らの魂そのものを揺り動かした真理を平然と聞く。彼らは真理に対する無視と無関心と反抗をまく。であるから、彼らが刈り取る収穫も同様である。氷の冷たさ、鉄の硬さ、突き通すことのできない、感受性のない岩の性質—これらすべてはクリスチャンであると公言する多くの者の品性の中によく似たものを見出す。主がパロの心を頑なにされたのは、このようにであった。神はモーセの口を通して、神の力の最も際立った証拠を与えつつ、エジプトの王に語られた。しかし王は彼に悔い改めをもたらしたはずの光を頑固に拒んだ。神は反抗的な王の心を頑なにするために超自然的な力を送られたのではなく、パロが真理を拒んだときに聖霊は取り去られ、彼が選んだ暗闇と不信仰に取り残されたのである。

御霊の感化力を頑固に拒むことによって、人は自分自身を神から断ち切る。このお方は彼らの思いを啓発するためにこれ以上影響力のある代理人を備えてはおられない。神のみ旨の啓示は彼らの不信仰のゆえに彼らに届くことができない。……

わたしたちはみな肉か御霊のどちらかに種をまいている。そしてわたしたちは自分がまいた種を刈り取るのである。(ビュー・アンド・ヘラルド 1882年6月20日)

あなたが永遠の関心事に注意を払うとき、身を起こしよい種をまき始めなさい。あなたがまくものをあなたは刈り取る。収穫—わたしたちがまいたものを刈り取る大いなる収穫の時は近い。作物に失敗はない。収穫は確かである。
(教会への証 2 巻 31)

純潔な思想だけを保つ

『『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。』（マタイ 5:27,28）

立派なタラントを持ちながら、不正にサタンへの奉仕に自らを捧げている者が多い。わたしは、世から出てきて闇の技から離れていると公言する人々にどのような警告を与えることができるであろうか。また、神によってその律法の保管者としていただきながら、全能者の面前で見たところは繁っている枝をこれ見よがしに誇示してはいるが、神の栄光のために実を結ばないうめぼれたイチジクの木のような人々に、どのような警告を与えることができるであろうか。彼らの多くは不純な思想、罪深い想像、清められていない欲望、卑劣な情欲を大切にしている。……

キリストの大使として、不純な者に近づくことを即座に嫌い、不純なほのめかしを吹き込む人々の社会を捨てるために現代の真理を公言するあなたに、わたしは懇願する。これらの神を冒瀆している罪を最も激しい憎しみで嫌いなさい。会話においてすら、思いがそのような水路を通る人々から逃げなさい。「おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである」（マタイ 12:34）。

これらの神を冒瀆している罪を実践する者が世に着々と増えており、わたしたちの教会の中に割り込んでくるとき、彼らに場所を与えないようにと、わたしはあなたに警告する。キリストに従う者であると公言するが、彼は人のかたちをしたサタンである。彼は自分の主人にもっとよく奉仕することができるように、天の自由を借りている。あなたは一瞬といえども不純でひそかな暗示にすきを与えてはならない。なぜならこれでさえも、不純な水はそれが通る水路を汚すように魂にしみをつけるからである。

罪で魂を汚すよりは、貧困、非難、友との分離、どのような苦しみをも選びなさい。不名誉すなわち神の律法の違反よりは死を、というのが、すべてのクリスチャンのモットーであるべきである。改革者であると公言し、神の言葉の最も厳粛かつ精錬する真理を大事にしている民として、わたしたちはその標準を現在あるよりもはるかに高く掲げなければならない。（教会への証 5 卷 146,147）

誘惑から守る

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

〔神の律法は〕人の道徳的な性質の奥深く密かなところにまで及び、人の目や知識からは隠されてきた事に光の洪水をあびせる。手がなしかるること、あるいは舌の語ること、すなわち外面的な生活が示し得ることは、人の道徳上の品性を不完全に表すにすぎない。(パウロの生涯からのスケッチ 241,242)

聖なる見張り人はわたしたちの生活の一つ一つの働きと行動を記し、行動するようにと促す動機を一つ一つ量られる。ペルシャザルの宮殿の壁に文字を書いたその手は、あらゆるところに「神はここにおる」と書いておられる。神はどの場所にもおられる。わたしたちのすべての言葉、すべての計画、すべての秘密の動機は無限の正義と真理のはかりで計られている。……

主がお読みにならない動機は心の中にはない。このお方はどの目的、どの考えもお読みになる。(上を見上げて 207)

心が天の恵みによって新たにされるのでなければ、生活のきよめを求めても無益である。キリストの恵みとは関係なしに、気高く正しい品性を築こうとする者は、くずれる砂の上に家を建てているのである。それは、激しい誘惑のあらしが襲ってくると、確実に倒れる。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」というダビデの祈りが、すべての魂の祈りでなければならない(詩篇 51:10)。天の賜物を受けて初めて、われわれは「信仰により神の御力に守られ」ながら完全に向かって進むことができる(ペテロ第一 1:5)。

だが、誘惑に抵抗するためにわれわれにもしなければならないことがある。サタンの方略の犠牲になりたくない者は、魂の道をよく守り、不純な思いを起こさせるものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。(人類のあけぼの下巻 74)

愛情を生き生きと保ち、他人の心の中に存在する善に敏感でいる状態に心を保つには、特別な見張りを要する。もしわたしたちがこの点を見張らないなら、サタンはわたしたちの魂に自分のねたみを入れる。彼は、わたしたちが兄弟の行動をゆがんだ光の中で見るようにと、わたしたちの目の前に彼の眼鏡を置く。わたしたちは、兄弟を批判的に見る代わりに、自分たちの目を内に向け、自分自身の品性の嫌な特性を発見する用意ができていべきである。(ビュー・アノド・ヘルド 1891 年 2 月 24 日)

あなたの宝はどこにあるか

「あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:21)

利己心と世を愛する心のゆえに、神は忘れられ、多くの者に魂の不毛があり、「わたしはやせ衰える、わたしはやせ衰える」と叫ぶ。主はご自分の民を試し、彼らが公言するご自分への愛の深さをテストするために、彼らに財産を貸し与えられた。ある者はこのお方を手離し、自分たちの地上の財産を減らして、犠牲によってこのお方と契約を結ぶよりは、自分たちの天の宝をあきらめてしまう。このお方は犠牲を払うようにと呼んでおられる。しかし、世への愛着が彼らの耳を閉ざし、彼らは聞かないのである……

大資産を得ていながら、なお自分の所有を増し加えている人々は、はるかに遅れを取っている。彼らは自分たちがないうことに比べると、ほとんど何もしていない。彼らは出し惜しみ、神から盗んでいる。なぜなら、彼らは欠乏するのではないかと恐れるからである。彼らはあえて神に信頼しようとしな。これこそ、わたしたちが民としてあまりにも病気がちで、あまりにも多くの人が墓に下っている理由の一つである。貪欲がわたしたちのうちにある。世を愛する人々、また雇っている労働者に出し惜しむ人々が、わたしたちのうちにいる。この世では何も持っていない人々、貧しくて自分の労働力に頼っている人々は、厳しく不正に扱われてきた。世を愛する人々は、硬い顔とさらに硬い心をもって、厳しい労苦によって得たわずかな金額をしぶしぶ支払ってきた。彼らは、自分たちがその僕だと公言している自分たちの主人なるお方もまったく同様に扱うのである。彼らは、同じようにしぶしぶと神のさいせん箱に入れるのである。譬の中の男は自分の財産をおくところがなかったので、主は彼の無益な生涯を短くされた。このお方は多くの人々も同様に扱われる。この堕落した時代に、世的に利己的にならないよう守ることはなんと難しいことであろう。わたしたちのすべての憐れみの与え主に感謝しなくなるのは、なんとたやすいことであろう。勤勉のかぎりを尽くして、魂を守るために、大いなる警戒と、また多くの祈りが必要とされている。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ 13:33)。(教会への証 2 巻 198,199)

幸福を求めている非常に多くの者が、自分の望みにおいて失望するであろう。なぜなら、彼らは悪い求め方をするからである。真の幸福は、利己的な満足の内ではなく、義務の道において見出されるのである。(ビュー・アンド・ワルド 1885 年 9 月 1 日)

より良い言葉を取り出す

「心からあふれることを、口が語るものである。善人はよい倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。」(マタイ 12:34,35)

自分の信仰の足りなさ、悲しみ、苦しみについて語るのをやめなさい。誘惑者はそういう言葉を聞くのを喜ぶ。陰鬱な話をするのはサタンをあがめていることになる。わたしたちを征服せんとするサタンの大きな力について長く語ったり、考えたりすべきではない。サタンの力について語っているうちに、その手の中に陥ることがよくある。その代りに、ご自身のみ心にわたしたちの関心をすべて結びつけられる神の大きな力について語ろう。(ニストリー・オブ・ヒーリング 230)

人は自分たちの心を神に捧げた後ですら、時々宗教的な主題について非常に控えめ、臆病、神経過敏であるが、それは彼らが持つことのできるはずの力強さを受けないからである。わたしたちは現世の関心事を差し控えることなく語る。そうであればなぜ自分たちの永遠の関心事を語るのにそれほど気が進まないのでしょうか。すべての心が聖なる大胆さを吹き込まれると良いのに。わたしたちはみな勇気と不屈の精神と信仰をもって人々の前にイエスを掲げることができると良いのだが。(サイモン・オブ・ザ・タムズ 1882年3月16日)

あなたの兄弟や隣人があなたに会いに来るとき、イエスのすばらしい愛について語りなさい。失われた人間のためのこのお方のとりなしを喜びなさい。あなたの友に、彼らがキリストの血で買い取られているがゆえに、あなたが彼らの魂のために持っている愛を語りなさい。……あなたの同胞である寄留者たちが主にあって喜ぶことができるように、義の太陽の光線が彼らの上に輝くようにしなさい。あなたはこれを家庭の伝道活動、近隣の伝道活動、教会での伝道活動で行うことができる。だれも審判の時に立って、「あなたはなぜこの真理についてわたしに教えてくれなかったのか。なぜわたしの魂を心にかけてくれなかったのか。なぜあなたは世と世の娯楽を非常に愛して、それらは悪いもののはずがないという考えをわたしに印象づけたのか」と言うことができないように。(ビュー・アンド・ヘラルド 1888年8月28日)

益にならないことを語るのを減らし、命の御言、イエスのことをもっと多く語ることは、魂の内に霊的啓発と大いなる喜びを与える。(原稿川→11 巻 207)

清い水は清い泉から

「泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。」（ヤコブ 3:11,12）

みだらな冗談、悪ふざけ、軽率、軽薄な精神は、罪人にとってつまずきの石であり、聖化されていない心の傾向に負ける者にとってはなお悪いつまずきの石である。……もしだれでも一言でさえもわたしたちの主によって語られた軽率な言葉や、あるいはこのお方のご品性に何らかの軽薄さを指摘できるなら、その人は自分自身にも軽率さと軽薄さが許されると思うことができる。この精神はクリスチアンの精神ではない。なぜならクリスチアンというのはキリストのようであるということだからである。イエスは完全な型であるから、わたしたちはこのお方の模範を真似るべきである。……

みだらな冗談や軽率で軽薄な発言をする癖のある者が、にわかに威厳をもって、聖なる講壇に登場することもある。彼らはただちにまじめな主題の熟考へと移り、そして自分たちの聴衆に、かつて死すべき人間に委ねられた最も重要でテストとなる真理を提示することができるかもしれない。しかし、彼らが感化を与えた同労者、彼らと共に不注意な冗談に加わっていた働きの仲間たちは、それほどすぐに自分たちの考えの流れを変えることはできない。彼らは非難されていると感じ、彼らの思いは混乱する。そして天来の主題を熟考し、キリスト、しかも十字架につけられたキリストを説教するのに適さなくなる。

笑いを引き起こすようなしやれたことを言う気質は、み事業の必要を考えるとき、それが実行委員会であろうと、理事会であろうと、そのほか仕事上の会議であろうと、キリストのものではない。この時機をわきまえない陽気さは、道徳力を低下させる傾向がある。……〔神は〕ご自分の民が品性の堅固さ、力強さ、堅実さを示し、快活で幸福な希望に満ちた気質を表すときにお喜びになる。（ビュー・アソド・ヘラルド 1884 年 6 月 10 日）

もしあなたがだれかを不当に取り扱ったなら、彼のところへすぐに行き、彼の手を取って「あなたを考え、あるいは言葉、あるいは行動で傷つけたことをお許してください」と言うべきである。天はそのような光景を是認をもってご覧になる。わたしたちはこの温かみのない、冷たいパリサイ主義をすべて打ち砕きたい。（同上 1888 年 8 月 28 日）

告白はより純粋な信仰をもたらす

「もしわたしが心に不義をいだいていたならば、主はお聞きにならないであろう。」(詩篇 66:18)

わたしたちは神のあわれみを受ける資格はないが、自分を神にささげるとき、神は受け入れてくださる。このお方は神に従う者のために働き、また、その人々を通じて働かれるのである。しかし、神のみ言葉に従って生活するときに初めてわたしたちはその約束の成就を主張できる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 204)

神の民は理解をもって行動しなければならない。彼らは知っている罪はみな告白するまで満足すべきではない。それからイエスがそれらを受け入れてくださることを信じるのは、彼らの特権であり義務である。彼らは他の人々が暗闇を貫いて押し進み、彼らが楽しむために勝利を得てくれるのを待つてはならない。そのような楽しみが続くのは、集会が閉じるまでのことである。しかし神には感情ではなく原則に従って仕えなければならない。朝に夕に、あなた自身の家族の中で、自分自身のために勝利を得なさい。あなたの日々の労働をこれから離してはならない。祈る時間を取りなさい。そして祈るとき神があなたの祈りを聞いて下さると信じなさい。あなたの祈りに信仰を混ぜなさい。あなたはいつもすぐに答えがあると感じないかもしれないが、それは信仰が試みられているときである。あなたが神に信頼しているかどうか、あなたに生きた不変の信仰があるかどうかを見るために、あなたは試されている。「あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであろう」(テサロニケ第一 5:24)。信仰の狭い板の上を歩きなさい。ことごとく主のみ約束に信頼しなさい。暗闇の中で神を信頼しなさい。その時こそ信仰を持つべきである。しかしあなたはしばしば感情にあなたを支配させる。自分が神の御霊によって慰められていると感じないとき、あなたは自分自身のなかに価値を探し、見つけることができないので失望する。あなたはイエス、すなわち尊いイエスを十分信頼していない。このお方の価値をすべてのすべとしていない。あなたができる最上のことは神の好意に価値を置かない。あなたを救うのはイエスの価値、あなたを清めるのはこのお方の血である。しかしあなたになすべき努力がある。あなたの分としてできることをあなたはしなければならない。熱心になって悔い改め、それから信じなさい。

信仰と感情を混同してはならない。それらは別のものである。信仰を働かせるのはわたしたちの分である。わたしたちはこの信仰を働かせ続けなければならない。信じなさい、信じなさい。あなたの信仰に祝福をつかませなさい。そうすればそれはあなたのものである。あなたの感情は、この信仰とは何の関係もない。(教会への証 1 巻 167)

耳ざわりの良い預言によってテストされる

「あなたがたのうちに預言者または夢みる者が起って、しるしや奇跡を示し、あなたに告げるそのしるしや奇跡が実現して、あなたがこれまで知らなかった『ほかの神々に、われわれは従い仕えよう』と言っても、あなたはその預言者または夢みる者の言葉に聞き従ってはならない。あなたがたの神、主はあなたがたが心をつくし、精神をつくして、あなたがたの神、主を愛するか、どうかを知ろうと、このようにあなたがたを試みられるからである。」(申命記 13:1～3)

神の民はテストされ試される。はっきりとした指摘された証がこの働きの中で重要な部分を果たさなければならない。暗闇と危難のこの時代に、だれが真理全体に立ち、これを話すことができるであろうか。教師の大部分は耳ざわりの良いことを預言する。彼らは神の民だと公言している人々の現在の状態に危機感をおぼえる特別な理由をみとめない。民は眠っており、教師も眠っている。彼らは平和、平和と叫び、聞く大勢の者は彼らの報告を信じて安心する。これにより、忠実な教師が、鋭く忠実な証をになう必要性はさらに大きくなる。現代は不純物を除く時、闘争と試練の時である。穀物がふるいでふるわれるように、イスラエルの家はふるわれている。(ビュー・アズ・ハルル 1861 年 11 月 26 日)

神はご自分の民を目覚めさせられる。もし他の方法が失敗するなら、異端信仰が彼らの中に入り込み、麦からもみ殻を分けつつ彼らを振るう。(教会への証 5 巻 707)

罪を覆い隠し、それが違反者の思いになるべく悪く見えないように努める者は、偽りの預言者の働きをしているのであって、そのような行動に続く神の報復の怒りを予期することができる。主は墮落した人間の願いにご自分の方法を適応なさることは決してない。(教会への証 4 巻 185)

わたしたちはだれが主の側にいるかを知らなければならないその時が来ている。神の御事業は即座の行動を命じている。そうであれば今自分たちの忠誠さを試す最も小さなテストに耐えることのできない者は、龍の軍団が神の戒めを守り、イエスの証を持つ人々と戦うとき、どうすることであろうか。(パンフレット 16 巻 20,21)

すべて厳密に見られる

「神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」(ヘブル 4:12)

真理の宝を委ねられてきた者は、カルバリーの十字架上における神の御子の犠牲によってわたしたちのために買い取って下さった光と特権というよりすぐれた優位性をよく考えないのであろうか。わたしたちは自分たちに与えられた光によって裁かれるのであるから、わたしたちの行動の罪を軽くするような言い訳を見つけることはできない。道であり真理であり命であるお方がわたしたちの前に置かれている。多くの者は「あなたは品性のある弱い特徴によってわたしを裁くのではなく、わたしの品性を全体として考えなければならぬ」と言って、言い訳をしようとする。罪人が自分の罪を詫びようとするときに、それを取り繕おうとして、品性のキリストに似ていない特性の一つでもいざし続ける危険に気づかないとき、わたしたちはいつも心に深い痛みを感じる。わたしたちは自分の意志を主の意志の側に置くべきであり、このお方の恵みによって自分たちは罪から自由になると堅く決心すべきである。罪は律法の違反であり、それが罪であることを示すのは、悪における行為の大きさではない。アダムとエバは善悪を知る木の実を食べることを禁じられていた。そのテストは軽いものであったが、神への不従順の行為がその律法の違反であった。(ビュー・アンド・ヘルド 1893 年 8 月 1 日)

偉大な天の芸術家であられるお方は一つの行動、一つの言葉に気づいておられ……また、思想や心の意図ですら忠実に詳しく記述されている。道徳上の品性におけるどの欠点も、天使たちの注視にさらされている。……人間の目にはその動機が隠されていても、エホバのすべてを見ておられる目には識別されている欺瞞的な行動は、すべて生ける品性の中に書かれている。利己的などの行動もさらされている。(教会への証 1 巻 501)

どの言葉も行動も天の書物の中に焼き付けられている。人間の手は一つの不名誉なしきも消すことはできない。

その驚くべき特権と機会を伴った命はまもなく終わる。品性を発達させる時は過ぎ去る。(ビュー・アンド・ヘルド 1886 年 6 月 15 日)

わたしたちは助けを大いに必要としている

「神は心の秘密をも知っておられるからです。」(詩篇 44:21)

神の律法は、外面的な行動と同様に、感情や動機にまで及ぶ。それは心の秘密を明らかにし、闇の中に埋もれている事柄に閃光を放つ。神はすべての思想、すべての目的、すべての計画、すべての動機をご存じである。天の書は、機会があれば犯された罪を記録している。神はすべてのわがを、すべての秘かなことと共にさばきかけられる。ご自分の律法によって、このお方はすべての人の品性を量られる。芸術家がキャンバスに顔の特徴を写すように、各個人の品性の特徴は天の書に写されている。神はすべての人の品性の完全な写真をもっておられる。そしてこの写真をご自分の律法と比較なさる。このお方は人にその生涯を傷つけている欠点をあらわし、彼に悔い改めて罪に背を向けるようにとお求めになる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1901年7月31日)

イエスに立ち返り、このお方にあなたの問題をすべて告げなさい。キリストはあなたのすべての状況をご覧になり、あなたのすべての誘惑や悲しみをご存じである。敵は、あなた自身をより良いものとし、神の許に来るのに十分なほどよいものとなるまでキリストから離れているようにとほめかすであろうが、彼のほめかしに耳を傾けてはならない。なぜなら、もしあなたが神のみ許へ行けるほど良いものとなるまで待つなら、あなたは決して行くことはないからである。あなたはさばきの時まで待つかもしれないが、キリストの許へ行くのにふさわしくなることはない。「見よ、今は恵みの時、……今は救の日である」(コリント第二 6:2)。あなたは今日、キリストの愛の引き寄せる力に明け渡し、ありのままでこのお方の許へ行かなければならない。あなたが行くとき、このお方はあなたを引き寄せ続け、ついにすべての思想がイエスのとりこにされるようになる。敵があなたが罪人であることを責めながら、あなたを自分の救い主から引き離しておこうとすると、彼にあなたには主の許へ行く資格が与えられていることを告げなさい。なぜなら、このお方が「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」と言われたからである(ルカ 5:32)。……罪人が来ることはキリストにとって歓迎しないことではない。……天はイエスを受け入れる人々を受け入れようと待ち構えている。であるから、わたしたちはこのお方の許へ来て、わたしたちがまさに必要としているものを求め、それらを受けると信じようではないか。(パイブル・エコー 1893年2月15日)

わたしの二心を一つにする

「主よ、あなたの道をわたしに教えてください。わたしはあなたの真理に歩みます。心をひとつにしてみ名を恐れさせてください。」(詩篇 86:11)

現代の神の民の大いなる罪は、神がわたしたちに賜る祝福の価値を正しく評価しないことである。わたしたちはこのお方に二心をもって仕えている。何らかの偶像を抱えている者が多い。(ビュー・アンド・ヘラルド 1887年4月12日)

わたしたちは終わりの時代の危険のただ中に生存している。そこには、思いをそらさせ、神から愛情をそらさせようとそそのかすすべてのものがある。(教会への証 3巻 403)

神は二心を分かちあうことはない。もし世がわたしたちの注意を奪っているならば、このお方が最上位を統べ治めることはおできにならない。(ユース・インストラクター 1896年12月31日)

あなたは時折外面的に宗教的な義務の遂行に携わることがあるが、あなたの心は働いていない。あなたは時折罪人に警告の一言や真理のための一言をこぼすが、しかし、それは快活な子供としての愛情の奉仕ではなく、あなたかも監督者に捧げているかのような気乗りのしない奉仕である。もしあなたの心がクリスチャンの熱心さに明々と燃えているなら、もっとも達成の難しい義務が楽しく容易なものとなる。

多くの人々にとってクリスチャン生活がこれほど難しいその理由は、彼らが二心を持っているからである。彼らは二つの思いを持っているため、彼らのあらゆる道で安定がない。彼らがクリスチャンの熱心さを豊かに吹き込まれているならば、それはつねに、神への献身という結果をもたらし、「わたしはやせ衰える、わたしはやせ衰える」という嘆かわしい叫びの代わりに、魂の言葉は、「主がわたしのためになされたことを聞きなさい」となる。(教会への証 2巻 234)

本当に神に栄光を帰したいと願っている人々は、すべての偶像やすべての罪が発覚することに感謝する。それはこれらの悪を認めて、それらを捨て去ることができるためである。(同上 4巻 354)

キリストのものであるということは、このお方のみ働きに献身することであり、思いと体の肢体一つ一つのすべての力を、このお方のみ旨を行い、このお方の栄光を前進させるために用いることである。それはこのお方のみ言葉に心を開くことであり、このお方の愛の証拠を表すことである。それは栄光の望みであられるキリストが内に形づくられることであり、このお方の比類のない魅力を熟考して、ついに魂の感謝が次の言葉になってあふれることである、「主がわたしのためになされたことを聞きなさい」。(ビュー・アンド・ヘラルド 1884年1月1日)

広い心になる

「あなたがわたしの心を広くされるとき、わたしはあなたの戒めの道を走ります。」(詩篇 119:32)

キリストはご自分を、低い者、困窮している者、また苦しんでいる者と一体になられる。このお方は幼子らをご自分の腕にいだき、青年たちの標準にまで降りてこられる。このお方の広い愛の心は、彼らの試練や必要を理解することができ、このお方は彼らの幸福を喜ばれた。(福音宣伝者〔1892年版〕404)

人全体が、すべての分野一容貌において、気質において、言葉において、品性において一主の奉仕はよいものだという決定的な証を担う特権を持っている。……

農夫たちが自分の産物を推奨しようとするとき、最もみすばらしい見本を見せたりはしない。女は黄金のバターの最高の塊を持ってくる。男はあらゆる種類の最高の果物や野菜を持ってくる。そして、それらの外観が腕の良い働き人の手柄となるのである。できそこないの見本ではなく、地が産出し得るまさに選りすぐりのものを持ってくる。そうであれば、クリスチャンは無私の行為のうちに最も魅力的な果実を表すべきではないであろうか。戒めを守る神の民の実はいよいよ行いのうちに現れるべきではないであろうか。彼らの言葉、彼らのふるまい、彼らの衣服は、ごく最上の品質をもった実のようであるべきである。……

神は戒めを守るご自分の民を愛される。自分たちの服従を通して、彼らはこのお方の聖なるみ名に誉れを帰し、彼らのこのお方への愛を証する。しかし、彼らはこれを行っているであろうか。神のみ言葉の聖なる真理を聞く世の人々は、これらの高く聖なる真理を信じると公言している民が、自分たちの同胞の救いのために働くもつと激しく真剣な熱意がないのを見て驚く。わたしたちの信仰と熱意の強さは、わたしたちの道を照らす大いなる光に比例すべきである。信仰、すなわち謙遜に神に信頼する信仰は、それ自体、家庭の中で、近隣の中で、教会の中で現れる。聖霊の働きは、隠されるものでもないし、隠せるものでもない。神はご自身を民に御父として、絶対的に信頼できる神として表すことをお喜びになる。教会員はキリストのご品性の尊い特質を持とうではないか。そのとき、神の恵みの宝のゆえに、神への賛美と感謝のうちに言うことがはるかにもっと多くある。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898年9月29日)

互いの熱い愛

「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいただくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合いなさい。」(ペテロ第一 1:22)

わたしたちは終わりの時に近づきつつある。試練は外から十分にあるであろうが、それらが教会の中から来ることのないようにしよう。神の民だと公言する者は、真理のために、またキリストのために自己を否定しなさい。「なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである」(コリント第二 5:10)。神を真に愛するすべての者は、キリストの精神と、自分の兄弟への熱い愛を持つようになる。人の心が神との交わりのうちにあるほど、そしてその愛情がキリストに集中すればするほど、この生涯において自分が直面する乱暴さや困難に煩わされることが少なくなる。キリスト・イエスのうちに満ち満ちた男女の高さにまで成長しつつある人々は、品性においてますますキリストのようになり、つぶやいたり、不満に思う気質を超越する。彼らはあら探しをする人になることを忌み嫌う。

この時代の教会は、ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰を持つべきである。それは彼らがはばかりことなく、「神はわが助けぬし……です」(詩篇 54:4) と言うことができるようにする。……主はわたしたちに起きて前進せよとお命じになる。教会がどの期間でも自分たちの罪を捨てて、真理を信じ、そのうちを歩んだときには、神は誉れを受けられたのであった。信仰と謙遜な服従には、世が抵抗できない力がある。神の民にかかわる神のみ摂理の目的は、漸進的である。すなわち、クリスチャン品性の完全、聖潔の道における継続的な前進であり、明白な光と知識と神の愛のうちにより高くさらに高く上っていき、まさに終わりの時まで至るのである。ああ、なぜわたしたちはいつもキリストの教理の最初の原則ばかり学んでいるのであろうか。主は、もし教会員がこの危険な生ぬるさから目覚めようと熱心に努めるならば、教会のための祝福を豊かに持つておられる。(教会への証 5 巻 483,484)

みことばに従うことによって、要求されている実、すなわち「偽りのない兄弟愛」という実を結ぶ(ペテロ第一 1:22)。この愛は天から生まれ、高尚な動機や無私の行動へと至る。(患難から栄光へ下巻 219)

純潔な教会—純潔なわたし

「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

教会を清める働きは痛みを伴う働きであるが、もし教会が神のお褒めの言葉を得たければなおざりにしてはならない働きである。悔い改めなさい。なぜなら、あなたはその初めの愛から離れてしまったからである。ここに、キリストの教会員としてのわたしたちの働きが、はっきりと目の前に提示されている。もしわたしたちが不忠実であるならば、命の冠を失うことになり、他の人々がそれを受け取るのである。なぜなら、不忠実な者が落ちた場所を忠実な者たちが埋めるからである。もしわたしたちが主人のために光を輝かせることを拒むならば、またもしわたしたちが神のわざを行わないならば、他の人々が、まさにわたしたちがなしたはずであり、なし得たはずであるが、なすことを拒んだ働きそのものを行うのである。わたしたちが自分たちの使命を果たすことをやめるとき、また燭台が光を反射することを拒み、わたしたち個々人に世のために信任として委ねられた偉大な真理が彼らに与えられないとき、そのとき燭台は取り除かれる。(ビュー・アソド・ハルド 1887年6月7日)

世は、清めの血がわたしたちのよりどころでない限り、日々魂を汚す。すべての思想がキリストのとりこされるべきであり、すべての怒りの言葉が語られずにいるべきである。欺瞞があってはならない。利己心や不注意は正しいことからそらすものである。(ハイナル・エー 1895年7月29日)

主の目はいたるところにあって、悪も善も見ておられる。このお方はわたしたちのすべての誘惑をご存じである。そしてキリストがそれらに抵抗されたように、わたしたちも抵抗することを期待しておられる。イエスはわたしたちがご自分の純潔の生涯を送ることができるよう、わたしたちのために死なれた。……心は清められなければならない。なぜなら、命の泉はこれから流れるからである。意志はその舵をキリストの指令に譲らなければならない。パウロはこれを「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた」新しき人を着ることだと表現している(エペソ 4:24)。

罪との妥協は、決して純潔にして聖なる神に受け入れられることはできない。心と品性とふるまいのすべての方針が根本的に変わるのでなければ、改心は本物ではない。……この現在の生涯は、ただわたしたちの訓練学校にすぎない。ここでわたしたちは、キリストが来られるときに、しみもしわもその類のものがいっさいない者でいられるように清められなくてはならない。光のうちにある聖徒たちの嗣業を受ける準備をしなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901年7月17日)

聖霊に耳を傾ける

「あなたがたがわたしに対しておこなったすべてのとがを捨て去り、新しい心と、新しい霊とを得よ。イスラエルの家よ、あなたがたはどうして死んでよからうか。わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻って生きよ」(エゼキエル 18:31,32)。

真の宗教は単純にキリストに従うことである。利己心を表明する宗教には価値がない。なぜなら、罪深い心は本当の要塞だからである。心が無条件に降伏しないかぎり、神の祝福が魂に流れ込むことはできない……そして、新しい命は始まらない。(原稿リ-ス 18 巻 277)

新生によって表されている心の変化は、聖霊の効果的な働きによってのみもたらされることができる。このお方だけがわたしたちをすべての不純物から清めることがおできになる。もしこのお方がわたしたちの心を形づくり、形成するのを許されるならば、わたしたちは神の王国の性質を識別することができるようになり、わたしたちがこの王国に入る資格を得ることができる前に持たなければならない変化の必要性を悟るようになる。誇りと自己愛は神の御霊に抵抗する。すべての魂の生来の傾向は自己尊重と誇りからキリストの柔和と心の低さに変わることに反対する。しかし、もしわたしたちが永遠の命への道のりを旅したいならば、自己のささやきに耳を傾けてはならない。(ユ-ス・インストラクター 1897 年 9 月 9 日)

勝利するということは、わたしたちが自覚するよりはるかに多くのことを意味する。それは敵に立ち向かい、神に近づくことを意味する。それは、十字架を取り、キリストに従って、生来の傾向に反する事を喜んでなしていくことを意味する。キリストはわたしたちにどのように自己犠牲の生涯を送るかを示すために、天から来られた。このお方の力のうちに、わたしたちは完全を獲得することができる。このお方はわたしたちがこうすることを可能として下さった。そして、このお方が二度目に来られるとき、なぜわたしたちのためのご自分のご目的をわたしたちが果たさなかったのかと、わたしたちにお尋ねになる。日々、時々、わたしたちは裁きのために準備しており、自分たちの永遠の運命を決定している。……すべてのことが正確に聖所の金のはかりの上で量られる。

キリスト教とは、キリストの生涯への完全な順応を意味する。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901 年 7 月 17 日)

純潔は絶対に必要とされている

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ 5:8)

地におけるすべての会衆の中に、満足していない魂、救いに飢え渴いている魂がいる。夜も日も彼らの心の重荷は、わたしは救われるために何をすべきであろうか、である。彼らは、自分たちがどのように神の前に義認されることができるかを知らうと望み、熱心に人気ある説教を聞く。しかし、あまりにもしばしば、彼らが聞くのは、ただ耳ざわりの良い話と、雄弁な熱弁だけである。すべての宗教的な集会に、悲しみ落胆した魂がいる。牧師たちは彼らに神の律法を守ることはできないと教える。「わたしたちの時代には、それは人に対する拘束力はないのです」と彼は言う。「あなたはただキリストを信じなくてはなりません。そうすれば、このお方はあなたをお救いになります。ただ信じなさい」。こうして彼は彼らに自分たちの感情を標準とするように教え、彼らに知的な信仰を与えないのである。その牧師は、おおまじめだと公言するかもしれないが、彼は偽りの希望をもって悩んだ良心を静めようとしているのである。

多くの人々は、神の律法を拒否していながら、自分たちがキリストを信じると公言しているがゆえに、自分たちは天への道の途上にいると考えるように導かれる。しかし、彼らは最終的に自分たちが天の代わりに滅びへの道にいたことを発見するようになる。霊的な毒が、聖化という教理で砂糖がけされ、人々に与えられる。何千もの人々がそれをはやる思いで飲み込むのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1881年3月8日)

人々が神のみ言葉の靈感に関して動揺するのは、ほとんどの場合、そのみ言葉が責める彼らの聖化されていない生活のゆえである。彼らはその譴責や警告を受け入れない。なぜなら、それらが彼らの悪い一連の行動を示すからである。(教会への証 1巻 440)

もし生来の心の感情が抑制されず、信仰という手段を通して受け入れられる神の恵みの聖化する感化力によって征服されないならば、心の思想は純粹でも聖なるものでもない。神のみ言葉の中で目の前に提示されている救いの条件は、理にかなった、明白ではっきりしたものであり、神のみ旨への完全な一致と、心と生活の純潔に劣る何物でもない。わたしたちは自己をその欲と共に十字架につけなくてはならない。(同上)

中から外へ神を喜ばせる

「主よ、わたしをためし、わたしを試み、わたしの心と思いとを練りきよめてください。」(詩篇 26:2)。

生活の純潔は精練さを与え、それを持っている人々をますます下品さや罪への放縱を避けるように導く。(教会への証 1 巻 441)

イエスの美しさ、いつくしみ深さ、憐れみ、そして愛に思いをとどめることによって、精神的また道徳的力が強められる。そして思いがキリストの働きをなし、従順な子供であるよう訓練され続けていると、あなたは習慣的に、これは主の道であろうか、と尋ねるようになる。イエスはわたしがこれをするのを喜ばれるであろうか。この道はわたしを喜ばせるであろうか、あるいはイエスを喜ばせるであろうか。

そうであれば、すべての魂は次の主のみ言葉を覚えていよう、あなたはわたしの密かな罪をあなたのみ顔の光のうちに置かれます。多くの人々は、もしイエスを喜ばせたいのであれば、自分たちの思想と行動の傾向に断固たる変化をもたらす必要がある。わたしたちはめったに、神がご覧になることができるようには、自分たちの罪を悲しむべき光のうちに見ることはできない。多くの人々は自ら罪の道を追求するのに慣れており、彼らの心は、サタンの方の感化の下でかたくなになっている。そして彼らの思想はサタンの邪悪な感化力のとりこにされている。しかし、神の強さと恵みのうちに、彼らが自分たちの思いをサタンの誘惑に逆らっておくとき、彼らの思いははっきりとし、神の御霊に感化されることによって、彼らの心と良心は敏感にされる。そして罪はありのままに—はなはだしく罪深いものに—見えるようになる。そのときこそ、密かな罪が彼らの顔の光のうちに置かれる時である。彼らは自分たちの罪を神に告白し、それらを悔い改め、罪を恥じるようになる。(バプトル・コメント [E.G. コムメント] 3 巻 1150)

わたしたちは勝利する働きにおいて、魂のすべてのエネルギーを働かせ、イエスを仰いで自分自身ではなし得ないことをする力を求めるべきである。白い衣を着てキリストと共に歩む人々によって、罪は容認される得ない。汚れた衣は取り除かれ、キリストの義の衣がわたしたちの上につけられなくてはならない。悔い改めと信仰によって、わたしたちは神のすべての戒めに従順をお捧げし、このお方のみ前に傷のないものとなることができる。神の承認を受けるようになる人々は、今、自分たちの魂を悩ませ、自分たちの罪を告白し、そして自分たちの仲保者なるイエスを通して熱心に許しを嘆願している人々である。(教会への証 5 巻 472)

純潔な言葉と思想

「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように。」(詩篇 19:14)

わたしたちは互いに最も厳粛な関係を持ち続けている。わたしたちの感化力はずねに魂の救いのためか、それに反するかはいずれかである。キリストと共に集めているか、広く散らしているかはいずれかである。わたしたちは、他の人々を正しい道から外れさせることがないように、へりくだって歩み、まっすぐな道を作るべきである。わたしたちは思想と言葉とふるまいに最も厳密な高潔さを維持すべきである。神がわたしたちの密かな罪をご自分のみ顔の光におかれることを覚えていよう。最高の人をさえ悩ませるような、サタンによってほめかされ、引き起こされる思想や感情がある。しかし、もしそれらを心に抱かなければ、もしそれらが忌むべきものとして拒絶されるならば、魂が罪によって汚されることはなく、彼らの感化力によって、他の人が汚されることはない。ああ、わたしたちが一人ひとり、周囲の人々にとって、命から命へいたる香りとなるように！

神の聖なる真理のより深い認識が、大いに必要とされている。もしすべての人がメッセージの厳粛さと重大さを悟るならば、今は不注意に犯されている多くの罪がわたしたちの間で止むはずである。あまりにもしばしば、通俗的な思想やコミュニケーションに聖なる真理の主題が混ぜあわされているのではないであろうか。これがどこでなされようと、標準は低くされる。あなたの模範は、他の人々が真理を軽く見るように導く。そして、これは神の御目に最大の罪の一つなのである。

神が承認し、祝福して下さるような生き方をするのは、すべての人の特権である。あなたは時々刻々、天との交わりのうちにいることができる。あなたが罪の責めと闇の下にいつもいるのは、あなたの天父の御心ではない。あなたが自分自身を低めるのは神にとって喜ばしいことではない。あなたは、人と天使の前で、自分自身の良心が認めるような生き方することによって、自尊心を培うべきである。あなたが頭をうなだれて、心を自己の思いでいっぱいにして歩むのは、真の謙遜の証拠ではない。イエスの許へ行き、清められ、そして律法の前に、恥も良心の呵責もなく立つことは、あなたの特権である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888年3月27日)

貪欲に勝利する

「わたしに知恵を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。わたしをあなたの戒めの道に導いてください。わたしはそれを喜ぶからです。わたしの心をあなたのあかしに傾けさせ、不正な利得に傾けさせないでください。」(詩篇 119:34 ～ 36)

誇り、自己愛、利己心、強欲、貪欲、世の愛、憎しみ、疑い、嫉妬、邪推はみな、永遠に征服され、犠牲にされなければならない。キリストが現れるとき、それはこれらの悪を正し、このお方の来臨のための道徳的な適性を与えるためではない。この準備はみなこのお方が来られる前になされていなければならない。わたしたちが救われるためにはどうしたらよいか、わたしたちが神に承認されるよう自らを示すためには、わたしたちのふるまいはどうあるべきであろうか、これが思想と、研究の主題、そして熱心な問いであるべきである。

つぶやき、非難し、いらだちにふけり、自分の周りにいる人々を傷つけ、またそうすることによって自分自身の魂を傷つけるよう誘惑されるとき、ああ、深く熱心な切なる次の問いがあなたの魂から出るように。わたしは神の御座の前に傷のない者として立つてであろうか。傷のない者だけがそこにいるようになる。だれ一人として自分の心が地上のごみでいっぱいになっているときに天に移されることはない。道徳的な品性におけるすべての欠点がまず矯正され、キリストの血潮の清めによってすべてのしみが取り除かれ、すべての醜く愛せない品性の特質は、克服されなければならない。(教会への証 1 巻 705)

神のみ事業の前進と建設のための道が、利己心、誇り、貪欲、浪費、そして顕示欲によって妨げられている。教会全体が、働きのすべての分野において担うべき厳粛な責任を負わされている。もし教会員がキリストに従うならば、彼らは見せびらかしの傾向、衣服への愛着、優雅な家や高価な家具への愛着を否定することであろう。はるかに大きなへりくだりとはるかに大きな世からの区別がなくてはならない。……さもなければ、神はわたしたちの携わる働きの地位や性質が何であろうと、わたしたちをお受け入れにならない。……キリストから学び、天の大君が歩まれた自己否定の道を謙遜に歩むことがすべての人の義務である。(同上 7 巻 296,297)

神のみ言葉によって救出される

「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。」(詩篇 119:11)

わたしたちは神の口から出る一つ一つの言葉を信じることによってのみ、勝利することができる。わたしたちはサタンの詭弁や魔力によって打ち負かされることがないように、何と書かれているかを知らなければならない。ずるがしこい敵は、自分の行った道にわたしたちを従わせるよう導くようなやり方で、わたしたちの思いに働きかけ、わたしたちが偉大さや世の誉れや卓越さを夢見るようにさせる。もしわたしたちが彼の魔力によってわなにかけられたなら、イエスのみ名によって彼の力を譴責し、即刻サタンと絶縁しようではないか。あなたの飲んだ物がどのような性質のものであろうと、サタンがあなたにイエスを犠牲にして自己を高めさせようと導く方法が何であらうと、神聖な恵みの力を通して惑わしから逃れ、のぼせ上がりを避けなさい。わたしたちは次のように問う、「真理に従うべきではないと、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか」(ガラテヤ 3:1 英語訳)。

サタンがかけようとする恐ろしい魔術からの救出を神に叫び求める人々は、聖書を高く評価する。わたしたちの唯一の安全は、聖書全体を受け入れることにあり、切り離された一部だけを信じるのではなく、真理全体を信じることにある。もしあなたが書かれている一つのみ言葉を軽視するならば、あなたの足はすべる砂の上にあるのである。聖書は神聖な伝達であって、あたかも天からわたしたちに話しかけるのが聞こえる声のように、まさに魂へのメッセージである。わたしたちは永遠の現実を学ぶことができるように、なんとこの畏敬と敬神とへりくだりをもって聖書を開き、探るべきであらうか。サタンの魔術が破られ、聖書がわたしたちにとって神の生けるみ言葉となるとき、わたしたちは義務についての自分たちの確信に従っても安全である。なぜなら、わたしたちが目覚めて祈るなら、その確信は神の御霊の靈感を受けるからである。すべての者は、神のみ言葉こそ永遠のみ座のように永続するものであることを知って、聖書を研究しよう。もしあなたがへりくだって聖書研究にとりかかり、導きを求めて熱心に祈るならば、神の御使たちがあなたに生きた現実を開いてくれる。そしてもしあなたが真理の規則を大事にするならば、それらはあなたにとって、サタンの誘惑、惑わし、魔力に対する火の城壁となる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 9 月 18 日)

正直な善行

「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。直く歩み、義を行い、心から真実を語る者」(詩篇 15:1, 2)

わたしたちには、神のみ言葉の教えと訓告と招きと約束がある。それなのに、聖なる律法の一点一画から離れることによって、自分たちの魂を危険に陥れるのであろうか。神はわたしたち一人びとりに、次のように言われる、「わたしはあなたのわざを知っている」(黙示録 3:15)。(ビュー・アソド・ヘラルド 1888年3月27日)

[黙示録 3:5 引用]。もしわたしたちが勝利者になりたいならば、神に反するものを何か抱いてはいないか確かめるために、自分たちの心を探らなければならない。もし抱いているならば、わたしたちはここに約束されている白い衣を着ることができない。もしわたしたちが、聖徒たちの義である白い亜麻布をまとうて神のみ前に立ちたいならば、わたしたちは今勝利するという働きをしなければならない……

神の御使たちは道徳的価値を量っている。彼らは今生きている人々の名が命の書に残ることができるかどうかを調べるために、彼らのうちの品性の発達を見張っている。わたしたちの品性の衣を洗い、それらを小羊の血によって白くするための恩恵期間がわたしたちに与えられている。だれがこの働きをしているのであろうか。だれが自分自身から罪と利己心を分離しているのであろうか。……

わたしたちのうちの多くの人々のために、なされるべき大きな働きがある。わたしたちの思いと品性が、キリストの思いと品性にならなければならない。利己心がわたしたちの存在そのものに織り込まれている。それは副業としてわたしたちにもたらされ、多くの人々によって貴重な宝として大事にされてきた。神のための特別な働きは、自己と利己心が克服されないかぎり、何一つなされ得ない。多くの人々にとって、自分自身にかかわることはすべて、非常に重要性を持っている。自己が中心であり、すべてのものはそのまわりを回っているかのようである。キリストが今地上におられたとしたら、次のように言われることであろう、「沖へこぎ出し……なさい」(ルカ 5:4)。それほど自己にかまうものとなってはならない。あなた自身と同じように貴い人々が何千と生きている。そうであれば、あなたはなぜ、自分の周りに上着を巻きつけて、岸边に沿って進むのか。義務と有用性に目覚めなさい!もしあなたが沖へこぎ出し、あなたの網を下ろすならば、主人であるお方は魚を集めてくださる。そしてあなたは神の力強い働きを見るのである。(ヒストリカル・スケッチ 138,139)

わたしたちの心のうちにあるべき神の律法

「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」(詩篇 40:8)

わたしたちは、神の御旨に自分たちの意志を一致させながら、愛のうちに歩み、働くべきである。このようにする人々について、主は次のように宣言なさる、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心には書きつけよう」(ヘブル 8:10)。神は、この変化の働きにおいて力強く、全能のお方である。このお方の聖霊によって、ご自分の律法を心には書きつけてくださる。(レビュー・アノ・ハルト 1902 年 6 月 10 日)

神の律法が心には書きつけられると、それは純潔で聖なる生活のうちに表されるようになる。神の戒めは死んだ文字ではない。それらは霊であり、命であって、すべての想像や思想でさえもキリストのみ旨に従わせる。それらが書きつけられた心は、油断することなく守られる。なぜなら、そこから命の泉が流れ出るからである。イエスを愛し、戒めを守る人々は、悪の様子でさえも避けようとする。そうするように強いられるからではなく、彼らが純潔な模範を模倣しているからであり、自分たちの心には書きつけられた律法に反することはすべて非常に嫌に思うからである。彼らは自己満足を感じることなく、彼らを罪と不純から守ることのできる唯一の神に信頼を置いている。彼らを取り巻く雰囲気は、純潔である……

この終わりの時代に生きている人々の前にある危険は、純潔な宗教の欠如であり、心の聖潔の欠如である。神の改心させる力が彼らの品性を変えることにおいて働いてこなかった。彼らはユダヤ国家がしたように、聖なる真理を信じると公言するが、真理を実践しないことにおいて、聖書や神の力について無知なのである。神の律法の力と感化力はいたるところにあるが、魂の中にはなく、魂を真の聖潔へと新たにすることがない。(同上 1887 年 5 月 17 日)

神の律法が心には書きつけられている人は、人に従うよりは神に従い、神の戒めから少しでもそれるよりは、むしろすべての人に従わない。真理の靈感によって教えられ、神の一つ一つの言葉によって生きるための良い良心によって導かれる神の民は、自分たちの心には書きつけられたこのお方の律法を、自分たちが認め、従うことに同意できる唯一の権威として認めるようになる。神聖な律法の知恵と権威が最高なのである。(教会への証 1 巻 361)

心を尽くした献身

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。」(申命記 6:5)

神はわたしたちに対して本気であられる。もし心が純潔であれば、行動の純潔さと目的の高尚さが、なされるすべての働きのうちにある。すべての思いは清められ、すべての心が純潔にされなければならない。かつて死すべき人間に与えられた中で最も尊い光を受けてきた民によって罪が許容されることはないことを、すべての人が理解しなければならない。ただほんの短い間だけしかない。それから来るべきお方が来られ、遅くなることはない。自分の罪にしがみつくことを選ぶ人々は滅びなければならない。しかし、神は永遠のために徹底的な働きをなすすべての人に、深い同情を持っておられる。(世界総会冊子 1903 年 3 月 16 日)

もし心が純潔であれば、わたしたちは恵みのみ座にはばかりことなく行くことができる。神がわたしたちのことを聞いてくださることを信じ、わたしたちはあたかもこのお方が聞かれたことを知っているかのように行動するのである。これが信仰である。もしわたしたちが特別な感情を待つならば、失望することであろう。感情は信仰と何の関係もない。受け入れられる条件は、わたしたちが世から出てきて分離すること、密かな罪を捨てること、そしてどれか一つでも神のご要求を知りながら犯すことをやめることである。

もし各自が自分の特殊な気質や自分自身のやり方を通してという願望をもって天に行くとしたら、一体そこはどんなところになることであろう! そのような人々は、天においてさえ、もしいつも自分たちがやりたいようにできなければ、どんなに不満に思うことであろう! 正しさの愛は、地上にいる間に、わたしたちに織り込まれなくてはならない。そのとき天の光がもたらされ、わたしたちの心はイエスに開かれ、わたしたちは神のみ旨に完全に服するのである。

イエスは完全な模範をわたしたちに残してくださった。それを注意深く研究しよう。そしてわたしたちが研究し祈るとき、天との密接なつながりのうちに入るのである。わたしたちはイエスのようになろうと、もっと一生懸命努力しないのであろうか。わたしたちはもっと祈らないのであろうか。わたしたちは他の人々のためにもっと熱心に努力しないのであろうか。怠慢にやり過ごす時間はない。天に入るすべての人は、自分の働きの結果として、イエスに紹介する何人かの魂がいる。「よくやった」という言葉が、よくやらなかった人々に語られることは決してない。わたしたちは、もし忠実な者に約束されている報いを受けたければ、忠実でなければならない、また活動的でなくてはならない。(ビュー・アンド・ワールド 1886 年 3 月 16 日)

心を尽くして魂を勝ち取る

「わたしは心をつくして主に感謝し、あなたのくすしきみわがをことごとく宣べ伝えます。」(詩篇 9:1)

ギデオンの軍勢の経験には、わたしたちのための教訓がある。働きに心を込めて、熱心であったために小川の岸で飲もうとひざまづくために立ち止まらず、戦いに急ぐ道すがら自分たちの手で水をすくった者たち、彼らが神に用いられた人々であった。飲むために入念な準備をした者、そのために時間を取った者は、自分たちの家に送り返された。主なるイスラエルの神は、彼が熱心であるか、魂の重荷を心に負っているかどうかを調べるために、すべての働き人をご覧になっている。神はご自分の僕たちがこれらの生ける関心事を自分たちの指先で触るか、あるいは、自分たちの力を尽くしてつかむかを見ておられる。もしすべての人が、「スコットランドをください、さもなければ死にます!」と叫んだときに感じたノックスの関心一退けられることのない神との格闘—があるならば、主は彼らの努力と共に働いてくださり、彼らの労働の報いとして魂を与えてくださる。彼らは自分たちの成功のために得意になることもなく、一瞬たりとも他のだれかが自分に与えられるべき賞賛を受けるのではないかと恐れることもない。かえって、彼らは救われた魂のために神に感謝するあまり、彼らの心にも唇にも、夜となく昼となく賛美がある。神がご自分のみ事業において力強いものとなさるのは、このような働き人である。

わたしたちはあまりにも信仰がなさすぎ、あまりにも自分たちの見解において狭すぎる。ギデオンの軍勢が勝ったのは、彼らの数のゆえではなく、生きた信仰によって神の特別な指示に従ったからであった。もしわたしたちが狭い計画をたてるなら、非常にわずかなことしか成し遂げられないのを見ることになる。……神はわたしたちがたえず、自分たちの周囲にいる人々はキリストの血で買われたものであり、これらの魂が救われるか失われるかはわたしたちのふるまいや働き方におおいに依存していることを悟ってほしいと望んでおられる。わたしたちは偏狭者ではなく、改革者であることを常に表すべきである。(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1905 年 6 月 27 日)

わたしたちはいつでも、どこでも、わたしたちが神のいつくしみ深さを感謝していることを表現することがわたしたちの義務であることを決して忘れてはならない。……わたしたちがしたり、話したりするすべてのことにおいて、自分たちの主に誉れを帰さなければならない。わたしたちはキリストに魂を勝ち取る主の使命者とならなければならない。(原稿リ-ス 3 巻 134,135)

生ける愛の手紙

「あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙であつて、墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板にではなく人の心の板に書かれたものであることを、はっきりとあらわしている。」(コリント第二 3:3)

キリストがあなたと共に宿られるとき、そしてあなたがこのお方と共に宿るとき、あなたは過去数年に述べてきた以上に、述べることがある。あなたは人の心の板を切りとおすようなメッセージ、すなわち関節と骨髄とを切り離し、心の思想と意図を見分けるメッセージを持つようになる。もしわたしたちが目のある前にある悩みの時を通過できる知恵と知識を持ちたいと思うならば、毎日に信仰を働かせることによって、それを集めていなければならない。わたしたちはあなたが悩みの時について心配するように願っているのではない。そうではなく、あなたの働きのあるところでただちにそれに取りかかり、それを日々忠実に行つてほしいのである。あなた自身の教会に、近隣に、助けを必要としている魂がいる。……

尊い種を持って出て行きなさい。すべての軽率さや軽薄さはこの厳肅な働きにおいてわきに捨てなければならない。征服され、悔いた心をもって、涙を流して出て行きなさい。そうすれば疑いなく、あなたは再び喜び、束を携えて戻ってくる。あなたは栄光に満ちた成功を得る。あなたはキリストとの共労者となることができる。排他的になつてはならない。交わるのが楽しいと思う数人を求めて、他の人はみな自分自身に任せておいてはならない。あなたはある人に弱さを認め、他の人には愚かさを見るかもしれないが、彼らから離れて、あなたがほぼ完全だと思う人々とだけ交わつてはならない。あなたがさげすむ魂こそ、まさにあなたの愛と同情を必要としているのである。弱い魂が一人で苦闘し、あなたの助けや祈りなしに自分自身の心の感情と格闘するままに放っておいてはならない。あなたも誘惑に陥ることがありはしないかと反省しなさい。もしあなたがこれを行うなら、神はあなたをあなた自身の弱さのうちに放っておかれぬ。このお方の御目にあなたが責める人々の罪よりも大きい罪があなたにあるかもしれない。離れて立ち、次のように言つてはならない、「わたしはあなたよりもきよい」(イザヤ 65:5 英語訳)。キリストは人類にご自分の神聖な腕をまわしておられる。(ビュー・アノ・ヘルド 1889年6月11日)

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ」

Reformation Herald Publishing Association

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」(黙示録 18:1)

神はご自分の地上の働きの仕上げとして、わたしたちに三重のメッセージ(黙示録 14 章)を与えてくださった。これらによって、わたしたちは主の大いなる日に立つ準備をしなければならない。これらは今日のための現代の真理である。わたしたちがこれらのメッセージを取り扱う方法が、神の御前のわたしたちの立場を決定し、わたしたちの運命を救いか滅びのいずれかに決定する。「これらのメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、これらのメッセージをどう受け入れるかにかかっている」(初代文集 258, 259)。

黙示録 14 章は明らかに大欺瞞者が特別な関心を払っている生死にかかわる問題である。事実、彼は現代の真理をつかむわたしたちの力を弱めようと最善を尽くしている。「サタンは、これらのメッセージに影を投げかけて、神の民がそれらの重要性と時と場所をはっきりと識別しないように、絶えず努力している」(教会への証 6 巻 18)。そして残念なことに、彼は神の民だと公言する人々の間で、大いに成功してきたのである。

I- なぜ黙示録 18 章の御使が来なければならなかったのか

「サタンは第三天使のメッセージの宣布が縛られるような事態を考案してきた。わたしたちは彼の計画と方法に警戒しなければならない。真理の宣布の音が抑えられたり、この時代のためのメッセージが消音されたりしてはならない。第三天使のメッセージは強められ、確立されなければならない。黙示録 18 章は真理を慎重な言い回しではなく、大胆に力をもって提示する重要性を明らかにしている。……第三天使のメッセージを宣布するのに、あまりにも周りくどい言い方がなされてきた。メッセージは本来あるべきほどには、はっきりと際立って伝えられてこなかった。」(伝道 230)

「第三天使のメッセージは力をもって伝えられなければならない。第一と第二のメッセージの宣布は、第三の中で強化されなければならない。黙示録の中で、ヨハネは第三天使と一つになる天の使者について次のように述べている、『この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで言った』(黙示録 18:1, 2)。わたしたちは第三天使のメッセージをあまりにもはっきりせず人々に印象づけないようなやり方で伝える危険性がある。何かの関心事が持ち込まれて、力をもって宣布されるべきメッセージそのものが、やわらげられ、声のないものになる。」(教会への証 6 巻 60)

「黙示録 18 章に予告されているように、第三天使のメッセージは獣とその刻印に対して最終的な警告を与える人々によって大いなる力をもって宣布されなければならない〔黙示録 18:1 ～ 6 引用〕。これは第三天使の大いなる叫びのうちに鳴り響くべき神によって与えられたメッセージである。……第三天使のメッセージを宣布するのに、かつては熱心であった多くの人々が、いまや気が抜けて無関心になっているとは、厳粛な恐ろしい事実である！世俗の人々とクリスチャンだと公言する多くの人々の間の区別はほとんど見分けがつかない。かつては熱心なアドベンチストであった多くの人々が、世の習慣、ならわし、利己心へと世に一致しつつある。神の律法に服従するよう世を導く代わりに、教会はますます不法において世と密接に結合しつつある。日毎に教会は世に改心しつつある。」(教会への証 8 巻 118, 119)

E・G・ホワイトによれば、黙示録 18 章の御使は必要な強化を与えるのです。

「もうひとりの力の強い天使が、地上へくだって第三天使と声をあわせ、その使命に力と勢いを与えるように、任務を受けているのが見られた。」(初代文集 277)

「サタンはわたしたちの間に民としてわたしたちを譴責し、叱責し、わたしたちの過ちを捨て去るようと強く勧めるものが何一つもたらされないようにとできるかぎりの手段を講じてきた。しかし、神の箱を担う民がいる。……彼らは主の言葉を宣布する。彼らは自分たちの声をラッパのようにあげる。真理は彼らの手のうちで衰えたり、その力を失ったりはしない。彼らは人々に彼らのとがを示し、ヤコブの家にその罪を示すのである。」(牧師への証 411)

II- 分岐点であったミネアポリス

1888 年は SDA 教会にとって重大な時を画しました。同年およびそれからの数年の間に、教会は命にかかわる事柄の間で選択をなし、それによって自分の運命を決定するように召されたのです。

1. 光の始まり (1888 年)

主の僕は次のように記しました。

「わたしは民のために働きがなされなければならないこと、さもなければ多くの人々が、天から下ってきて全地をその栄光で明るくする御使の光を受ける準備ができないことを知っている。」(牧師への証 468, 469)

「テストのときがわたしたちに迫っている。なぜなら、第三天使の大いなる叫びは、罪を許す贖い主キリストの義の啓示の中にすでに始まったからである。これは全地をその栄光で満たす御使の光の始まりである。」(レクテッド・メッセージ 1 巻 363)

「主はご自分の大いなる憐れみのうちに、ワゴナー長老とジョーンズ長老を通して、ご自分の民に最も尊いメッセージを送ってくださった。このメッセージは世の前に上げられた救い主、すなわち全世界の罪のための犠牲を、より顕著に示すのであった。それは保証人を信じる信仰を通しての義認を提示した。それは、神のすべての戒めへの服従のうちに表されているキリストの義を受けるようにと民を招いた。」(牧師への証 91, 92)

2. わずかな者しか光を見ることができない

「わたしたちは最後の時代に生きている。そして最後の滅びを目撃することになる世代は、急がれる神の裁きについて警告のないままに放っておかれることはない。使徒は次のように言っている、〔黙示録 18:1-5 引用〕。全地はこのメッセージの栄光によって明るくされ、心と思いがそれを受け入れることによって、王の王なるお方の来臨のために準備がなされる。しかしこの恵み深いメッセージは全般的に、メシヤのメッセージがユダヤ国家に拒まれたように、クリスチャンだと公言する世界に拒まれる。わずかな者しか、真理の

証を受け入れない。なぜなら、サタンがもたらし得る神の真理を受け入れることに反対するあらゆる感化力が用いられるからである。……この時代のための命にかかわる最も重大な問いは、『だれが主の側にいるであろうか。だれが世に真理のメッセージを伝えることにおいて、〔黙示録 18 章の〕御使に結合するであろうか。だれが全地をその栄光で満たす光を受け入れるであろうか』である。自分たちの持っている光を大事にする人々は、もっと受けるのである。和らげ、征服するキリストの恵みに明け渡す魂の周りには、ますます増し加わる光が照らされる。そして光を愛する人々は、サタンの惑わしから救われるのである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1889 年 11 月 5 日)

「ほとんど二年もの間わたしたちは、来てキリストの義に関する光と真理を受け入れるように民に熱心に勧めてきたが、彼らはこの尊い真理の許に来てそれをつかむべきかどうか分からないのである。……彼らは救い主を中に入れてようとしない。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1890 年 3 月 11 日)

「ああ、何とわずかな者しか、自分たちの訪れの時を知らないことであろう! ……真に謙遜で献身した神を恐れる僕である人は、何と少ないことであろう。……

「今日、心から神に仕えている人々はわずかしかない。わたしたちの会衆を構成しているほとんどの人々は、とがと罪のうちに霊的に死んでいる。……彼らは、神の御目に喜ばれる事を実践しないために、ますます真理の尊さと価値を感じない者になっている。心を沸き立たせる譴責と警告の証は、彼らを目覚めさせない。人間の唇を通して神からもたらされる最も美しい旋律—信仰による義認とキリストの義—は、彼らから愛と感謝の反応を引き出さない。天の商人が彼らの前に信仰と愛の最も高価な宝石を並べているにもかかわらず、またこのお方のみ声は彼らに『火で精錬された金』と『身に着けるように、白い衣』と『見えるようになるため、目にぬる目薬』を買うようにと招いているにもかかわらず、彼らは自分たちの心をこのお方に対して鋼鉄のようにかたくなにし、自分たちの生ぬるさを愛と熱心に取り替えない。そして、自己満足のうちに腕を組み、告白はしながら、真の信心の力は否定する。もし彼らがこの状態のうちにい続けるなら、神は嫌悪をもって彼らを拒絶なさる。世と神を同時にほめたたえることは、神にはとうてい受け入れられない。目覚めよ、目覚めよ、永遠に遅すぎるまえに。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1893 年 4 月 4 日)

今回は、「3. 時間制限がある」へ続きます。

るでしょうか。

まず、このお方は、あまりにもたくさんのもを持っていて、それら全部を入れるのに十分な場所がなかった金持ちの話なさいました。自分自身の利己的な目的よりも大きなものを建てようと考えていたとき、「すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにでも取り去られるであろう。そして、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」(ルカ 12:20,21)。そしてイエスはわたしたちすべての者に次のようにお命じになります。「何を食べようかと、命のことで思いわずらい、何を着ようかとからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさっている。からすのことを考えて見よ。まくことも、刈ることもせず、また、納屋もなく倉もない。それなのに、神は彼らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、はるかにすぐれているではないか。あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。そんな小さな事さえできないのに、どうしてほかのことを思いわずらうのか。野の花のことはかんがえて見るがよい。紡ぎもせず、織りもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくだらないはずがあらうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。あなたがたも、何を食べ、何を飲もうかと、あくせくするな、また気を使うな。これらのものは皆、この世の異邦人が切に求めているものである。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要であることを、ご存じである。ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであらう」(ルカ 12:22～31)。

若い読者のみなさん、わたしたちの人生は、神のみ手のうちにあります。このお方はわたしたちのことをかえりみていて下さいます。もしわたしたちが何かを必要としていれば、このお方はそれについてご存じです。もしわたしたちが本当にはそれを必要としていなければ、このお方はそれをご存じです。イエスはわたしたちにご自分に従って来るようにとお命じになります。そうすれば、このお方は自分自身でやるよりもはるかにまさってわたしたちのために備えて下さるのです。信じますか? ためしてごらんさい!

ほうれん草とポテトのグラタン

〔材料〕 4 人分

ジャガイモ	2 個
たまねぎ	2 個
ほうれん草	1 束
ニンニク	1 片
ココナツミルク	1 缶
小麦粉	大さじ 2
塩	小さじ 2

〔作り方〕

- 1) ジャガイモとたまねぎを 1cm の輪切りにし、ニンニクをスライスします。
- 2) 1) の材料がかぶるくらいの水に塩を入れて煮ます。
- 3) 煮えたら、煮汁を 1 カップとり、その後にココナツミルクを入れます。
- 4) ほうれん草を 3cm に切り、沸き立った 3) に入れて、まぜます。
- 5) 冷めた煮汁に小麦粉を入れ、よく溶いてから 4) に入れます。
- 6) 火を止めてから、四角いオープン用のガラス容器に入れ、200 度で 10 分程度、表面に焦げ目がつくまで焼く。(パン粉を散らしてもよいです)

※ココナツミルクとは気づかない手軽な一品です。材料の割合はお好み次第で、調節してください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



神のみ手のうちに

「よろずのものの目はあなたを待ち望んでいます。あなたは時にしたがって彼らに食物を与えられます。あなたはみ手を開いて、すべての生けるものの願いを飽かせられます。」(詩篇 145:15,16)

〔ご両親がたへ：どうぞお子さんたちとルカ 12:13 ～ 31 に焦点を当てる時間を取って下さい〕

イエスが地上を歩まれた間、人々はこぞって、このお方の助けを求めてみ許にきました。ほとんどの人は、このお方に自分の病をいやしてほしいと頼みにきました。しかし、ひとりの人が、違った類の要望をもってきました。

「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってください」(ルカ 12:13)。イエスがパリサイ人の不正をどれほど強く公に譴責してこられたかを見て、この人は、きっと「このお方はわたしのものになるべきお金を手に入れてくれるに違いない」と思ったのでしょう。

しかし、主は本当にこの地上の問題をめぐる警察官や裁判官になるために地上に来られたのでしょうか。おそらく、イエスがお答えになったとき、この男の人はその答えに驚いたに違いありません。『人よ、だれがわたしをあなたがたの裁判人または分配人に立てたのか』。それから人々にむかって言われた、『あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんもの物を持っても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである』(ルカ 12:14, 15)。

生涯における最も重要なことは、わたしたちがどれだけ持っているかということではありません。多くの人々は、何を食いたい、何を着たい、あるいは自分たちがどれくらいたくさんいいものを楽しめるか—ということを他の何ものよりも考える傾向があります。これらすべてのことが彼らの人生の主だった焦点であるかのようです。次に彼らは自分たちが快適に—自分たちの考える幸福に一させるすべてのものを手に入れるのに十分なお金をどうやって稼ぐかについて心配します。しかし、イエスはわたしたちに何と仰せにな